

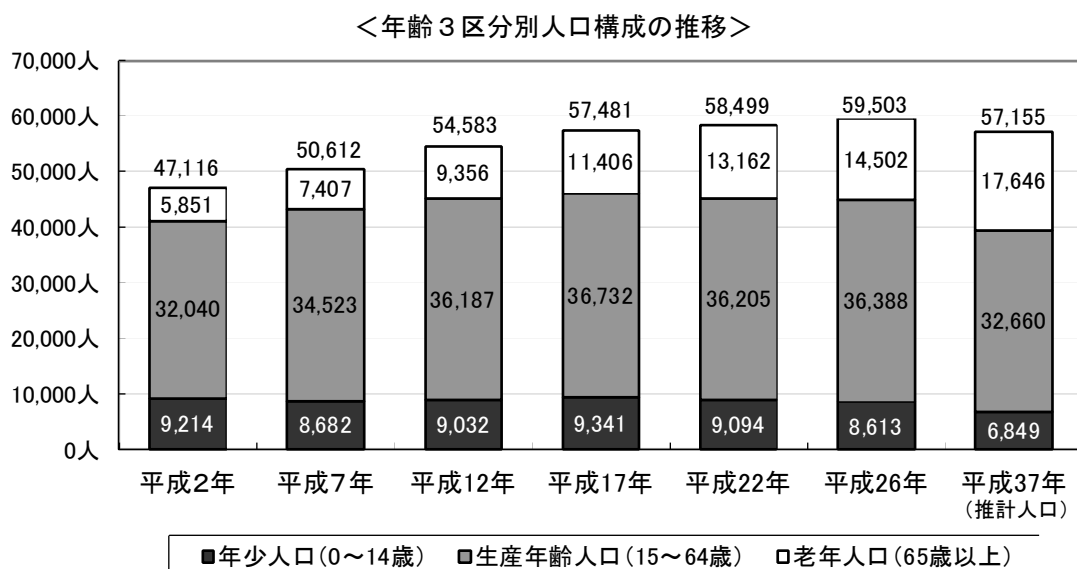
## 第2章 小郡市の高齢者等を取り巻く現状

### 1 高齢者の現状

#### (1) 年齢区分別人口構成の推移

小郡市の総人口は年々増加しており、平成2年から平成26年にかけて約12,000人増加しています。

また、年齢3区分別の人口構成の推移をみると、老年人口（65歳以上）が、平成2年の5,851人から平成26年の14,502人と、約8,600人増え、増加が顕著になっています。高齢化率（総人口に占める高齢者人口の割合）も12.4%から24.4%に上昇しており、小郡市においては少子高齢化の状況がみられます。



※総数は年齢不詳を含む

資料：国勢調査（平成26年：住民基本台帳10月1日現在 平成37年：国立社会保障・人口問題研究所）

＜高齢化率の推移＞ 単位：%

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成26年	平成37年(2025年)
小郡市	12.4	14.6	17.1	19.8	22.5	24.4	30.9
福岡県	12.4	14.8	17.4	19.8	22.1	24.5	30.5
全国	12.0	14.5	17.3	20.1	22.8	26.0	30.3

資料：国勢調査（平成26年：「小郡市 住民基本台帳10月1日現在」「福岡県 県ホームページ10月1日現在」「全国 人口推計10月1日現在」、平成37年：国立社会保障・人口問題研究所）

## (2) 高齢者世帯の推移

65歳以上の高齢者のいる世帯の推移をみると、平成2年の3,817世帯から平成22年の8,138世帯と約4,300世帯増加しており(2.13倍)、平成22年には全体の4割以上を占めています。

内訳をみると、特に高齢者のひとり暮らし・高齢者夫婦世帯の増加が顕著で、20年間でそれぞれ4.27倍、3.69倍に伸びています。

## &lt;高齢者世帯の推移&gt;

単位：世帯

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
一般世帯総数	13,060	15,223	17,232	18,773	19,967
65歳以上の高齢者のいる世帯	3,817	4,776	5,919	7,024	8,138
構成比	29.2%	31.4%	34.3%	37.4%	40.8%
ひとり暮らしの世帯	362	561	828	1,168	1,547
構成比	9.5%	11.7%	14.0%	16.6%	19.0%
高齢者夫婦世帯※	647	1,065	1,575	1,956	2,387
構成比	17.0%	22.3%	26.6%	27.8%	29.3%
その他の世帯	2,808	3,150	3,516	3,900	4,204
構成比	73.6%	66.0%	59.4%	55.5%	51.7%

資料：国勢調査

※高齢者夫婦世帯：夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの世帯

平成 22 年時点の 65 歳以上の高齢者がいる世帯の住居の種類をみると、90.9%が持ち家となっており、次いで民営の借家、公営・公団・公社の借家となっています。

＜65 歳以上の高齢者がいる世帯の住居の種類＞

単位：世帯、%

	世帯数	比率
65 歳以上の高齢者がいる世帯	8,138	100.0
持ち家 <sup>※1</sup>	7,400	90.9
公営・公団・公社の借家 <sup>※2</sup>	166	2.0
民営の借家 <sup>※3</sup>	510	6.3
給与住宅 <sup>※4</sup>	14	0.2
間借り <sup>※5</sup>	31	0.4
住宅以外 <sup>※6</sup>	17	0.2

資料：平成 22 年国勢調査

- ※1：居住する住宅がその世帯の所有である場合。なお、所有する住宅は、登記の有無を問わない。また、分割払いの分譲住宅などで支払いが完了していない場合も含まれる。
- ※2：公営の借家は、世帯の借りている住宅が都道府県営または市(区)町村営の賃貸住宅やアパートであって、かつ給与住宅でない場合。公団・公社の借家は、その世帯の借りている住宅が都市再生機構または都道府県・市区町村の住宅供給公社・住宅協会・開発公社などの賃貸住宅やアパートであって、かつ給与住宅でない場合。なお、これには、雇用・能力開発機構の雇用促進住宅（移転就職者用宿舎）も含まれる。
- ※3：その世帯の借りている住宅が「公営の借家」、「都市再生機構・公社の借家」及び「給与住宅」でない場合。
- ※4：勤務先の会社・官公庁・団体などの所有または管理する住宅に、職務の都合上または給与の一部として居住している場合。なお、この場合、家賃の支払いの有無を問わない。また、勤務先の会社または雇主が借りている一般の住宅に住んでいる場合も含まれる。
- ※5：他の世帯が住んでいる住宅（持ち家、公営の借家、都市再生機構・公社の借家、民営の借家、給与住宅）の一部を借りて住んでいる場合。
- ※6：寄宿舍・寮など生計を共にしない単身者の集まりを居住させるための建物や、病院・学校・旅館・会社・工場・事務所などの居住用でない建物。なお、仮小屋・天幕小屋など臨時応急的に造られた住居などもこれに含まれる。

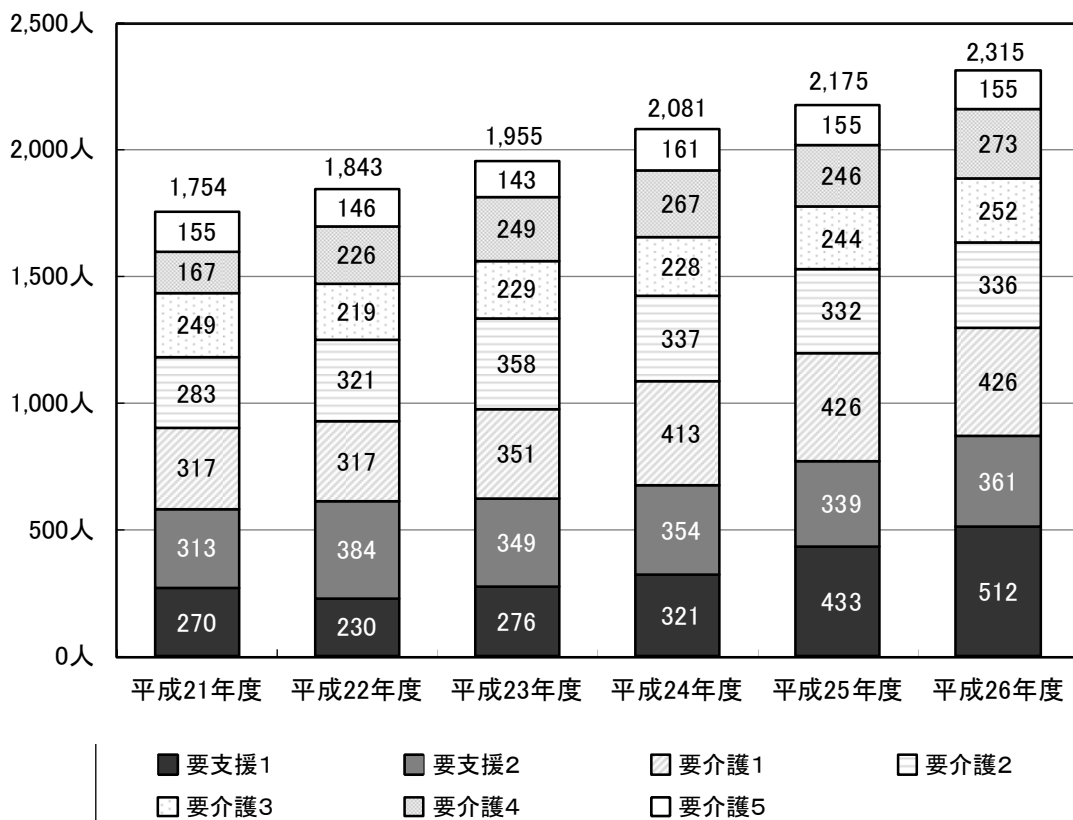
## 2 介護保険事業の現状

### (1) 要介護（支援）認定者数の推移

要介護（支援）認定者数の推移をみると、期間を通して増加傾向にあります。要介護度別では要支援1、要介護1で特に増加傾向がみられます。

また、平成26年度では、要支援1～要介護1の合計が1,299人（56.1%）となっており、軽度者が約半数を占めています。

<要介護（支援）認定者数の推移>

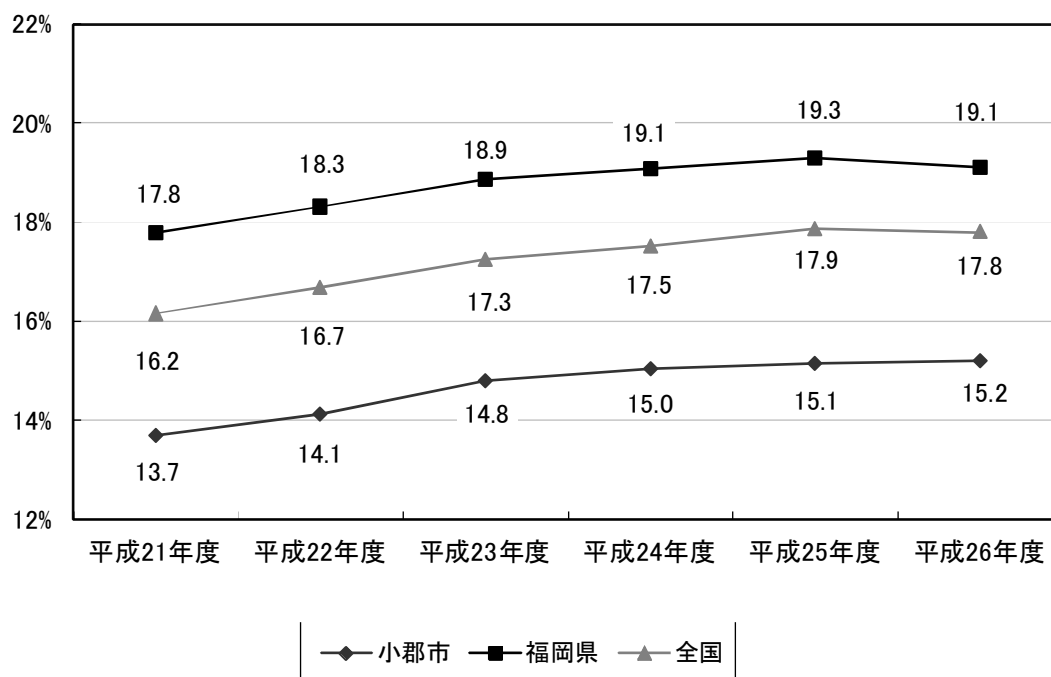


資料：介護保険事業状況報告（各年10月）

小郡市の要介護認定率（第1号被保険者数に占める要介護（支援）認定者数の割合）の推移をみると、期間を通して増加傾向にあります。

また、全国・福岡県と比較すると、いずれの割合よりも低水準で推移しています。

<要介護（支援）認定率の推移>



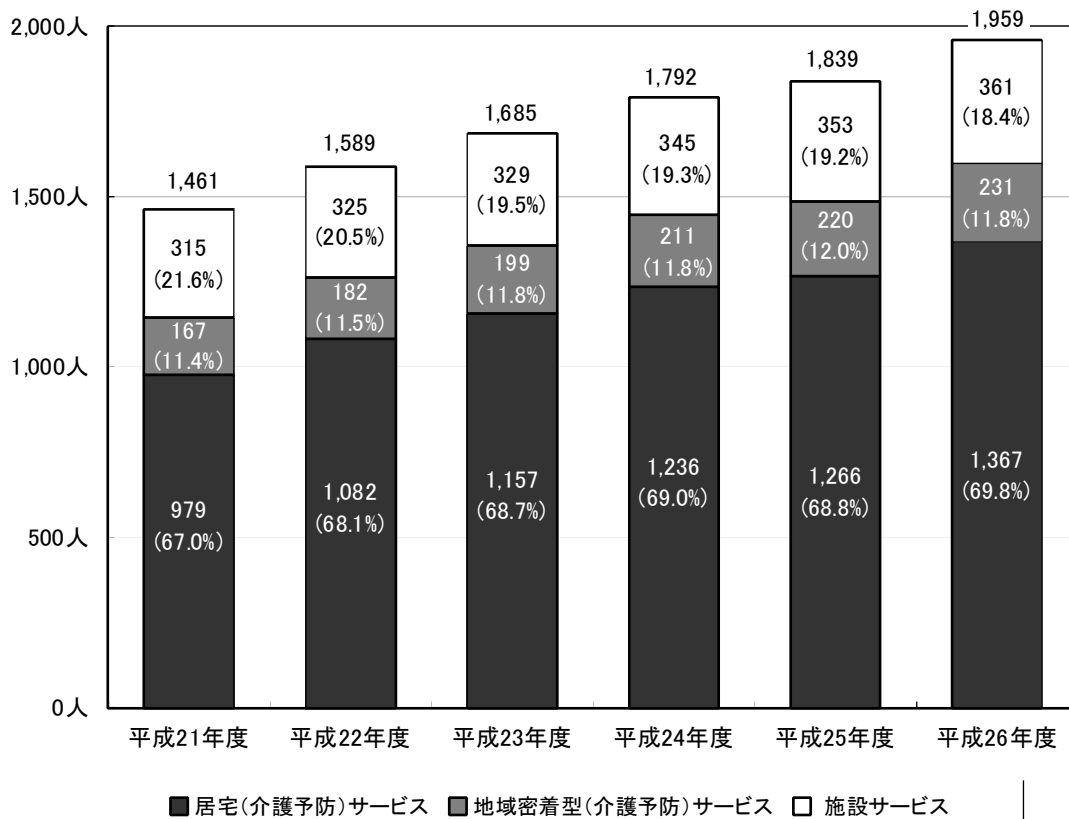
資料：介護保険事業状況報告（各年10月）（平成26年度は4月現在）

## (2) 介護保険サービス受給者数の推移

介護保険サービス受給者数の推移をみると、全体の人数は平成21年度以降増加し続けています。

内訳をみると、居宅（介護予防）サービスが6割から7割程度を占めています。また、いずれのサービスにおいても平成21年度以降、受給者数が増加し続けています。

<介護保険サービス受給者数の推移>



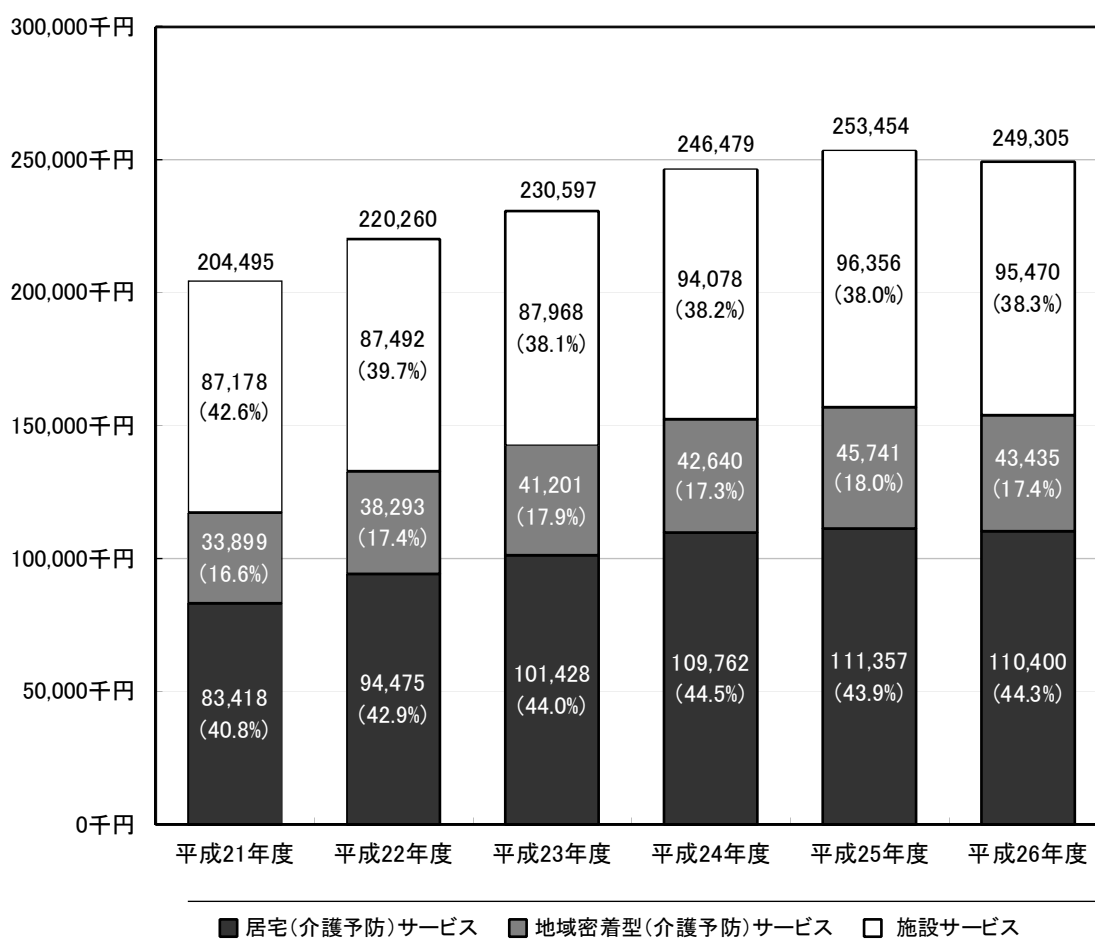
資料：介護保険事業状況報告（各年10月）

### (3) 介護保険サービス給付月額の推移

介護保険サービス給付月額の推移をみると、平成25年度まで増加し続けています。

内訳をみると、居宅（介護予防）サービスは平成21年度以降増加し続けており、平成22年度に94,475千円（42.9%）と、施設サービスの給付額87,492千円（39.7%）を上回り、現在もその状況が続いています。

<介護保険サービス給付月額の推移>



資料：介護保険事業状況報告（各年10月）（平成26年度は4月現在）

### 3 各種調査結果からみえる現状

この調査は、「小都市第6期高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の策定にあたり、市民の状況や意見を把握し、小都市における高齢者福祉施策の一層の充実、介護保険事業の円滑な実施に向けた参考資料とすることを目的に実施しました。

#### (1) 調査の実施概要

##### (ア) 高齢者福祉実態調査

###### ① 調査対象者

一般高齢者：平成26年4月1日までに65歳以上になる市民から1,000人を無作為抽出  
 認定者：要支援及び要介護認定者（平成26年1月1日現在）の市民から1,000人を無作為抽出

###### ② 調査方法

郵送による配布・回収

###### ③ 配布・回収の状況

	配布数 (A)	有効回収数 (B)	有効回収率 (B/A)
一般高齢者	1,000	762	76.2%
認定者	1,000	696	69.6%

##### (イ) 高齢者福祉・介護に係る課題調査

###### ① 調査対象者

関係団体及び介護・福祉の専門職

###### ② 調査方法

訪問による配布・郵送等による回収

###### ③ 配布・回収の状況

配布数：80票

回収数：63票

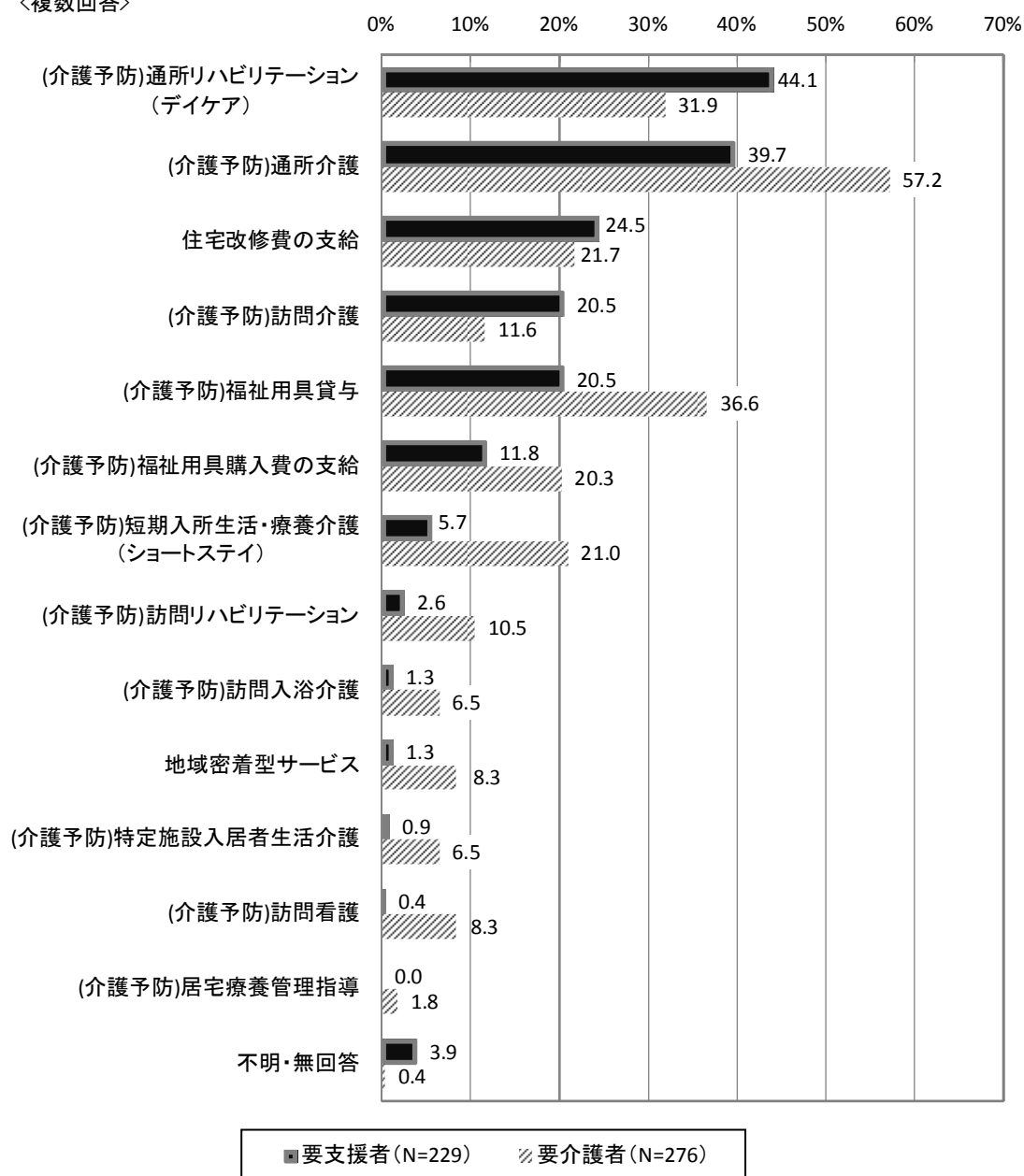


## (2) 介護保険サービス等について

### ① 利用している介護保険（予防）サービス

利用している介護保険（予防）サービスについて、アンケートの結果をみると、要支援者では「(介護予防)通所リハビリテーション(デイケア)」が44.1%と最も多く、次いで「(介護予防)通所介護」が39.7%、「住宅改修費の支給」が24.5%などとなっています。一方、要介護者では「(介護予防)通所介護」が57.2%で最も多く、次いで「(介護予防)福祉用具貸与」が36.6%、「(介護予防)通所リハビリテーション(デイケア)」が31.9%となっています。

<複数回答>

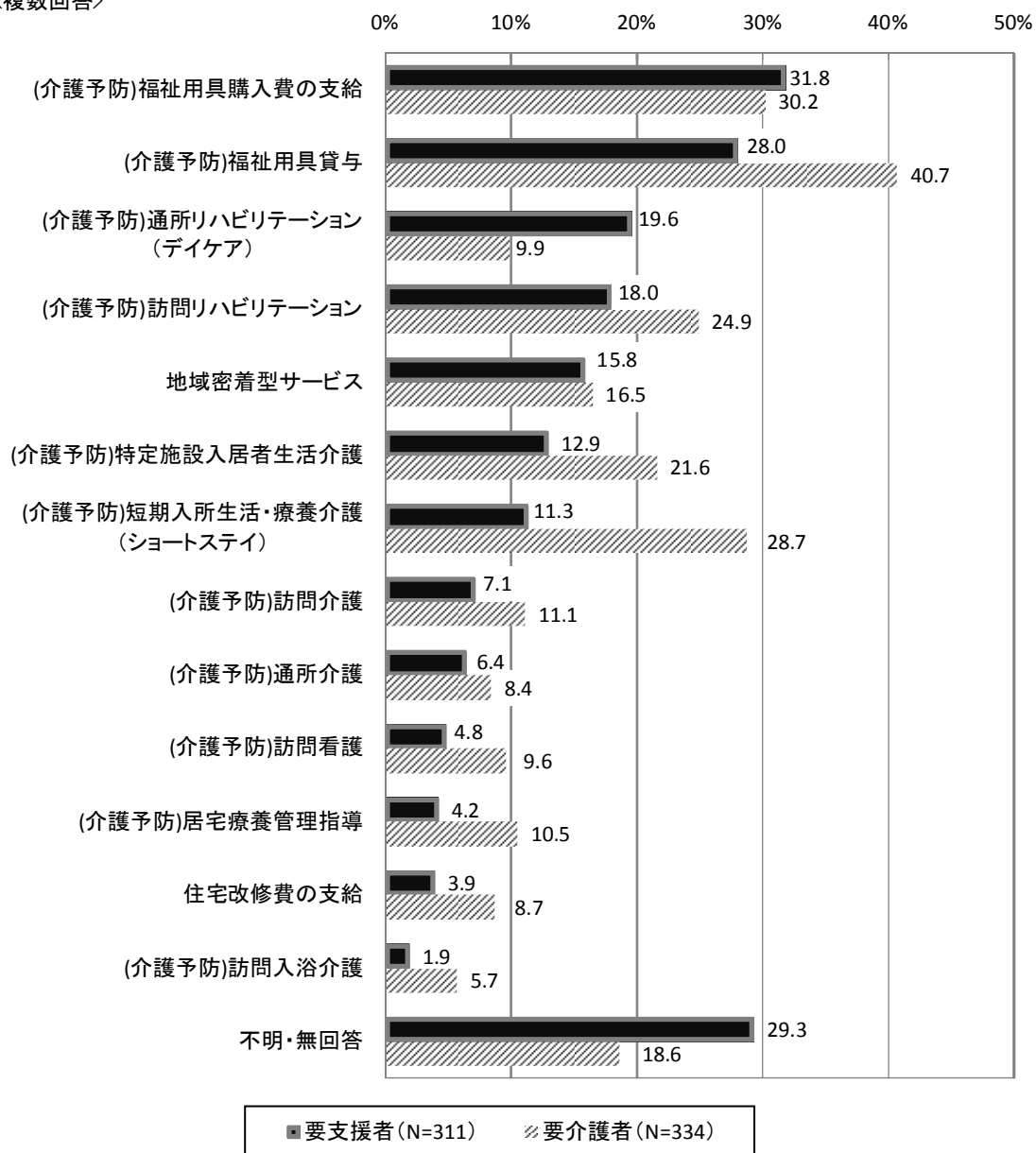


② 今後利用したい(利用し続けたい、新たに利用したい)介護保険(予防)サービス

今後利用したい介護保険(予防)サービスについて、アンケートの結果をみると、要支援者では「(介護予防)福祉用具購入費の支給」が31.8%と最も多く、次いで「(介護予防)福祉用具貸与」が28.0%、「通所リハビリテーション(デイケア)」が19.6%などとなっています。一方、要介護者では「(介護予防)福祉用具貸与」が40.7%で最も多く、次いで「(介護予防)福祉用具購入費の支給」が30.2%、「(介護予防)短期入所生活・療養介護(ショートステイ)」が28.7%となっています。

また、「(介護予防)福祉用具購入費の支給」「通所リハビリテーション(デイケア)」では、要支援者の方で利用希望割合が高くなっています。

<複数回答>



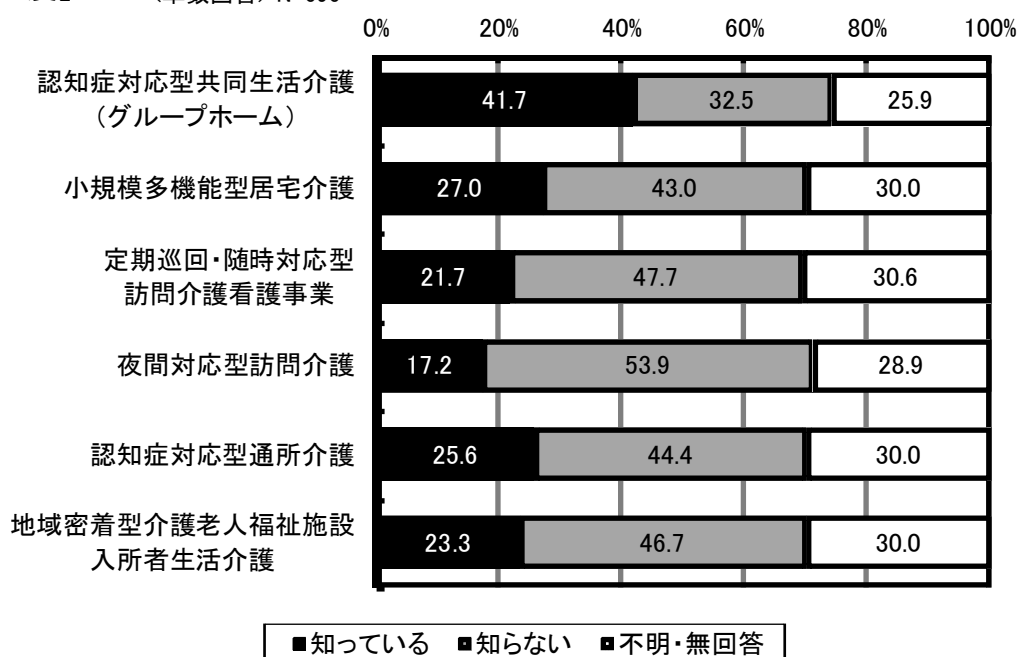
### ③ 地域密着型サービスの認知度と利用意向

地域密着型サービスの認知度について、アンケートの結果をみると、『認知症対応型共同生活介護（グループホーム）』で「知っている」が41.7%と最も高く、次いで『小規模多機能型居宅介護』が27.0%となっています。

また、利用意向についてみると、『地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護』が25.0%と最も高くなっています。

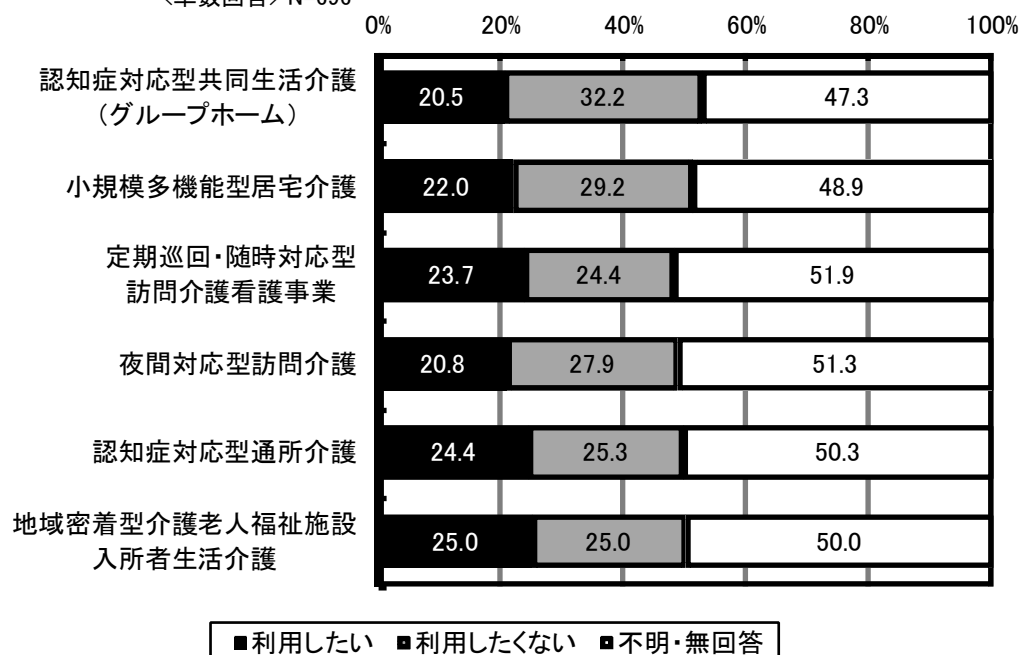
#### 【認知度】

<単数回答> N=696



#### 【利用意向】

<単数回答> N=696



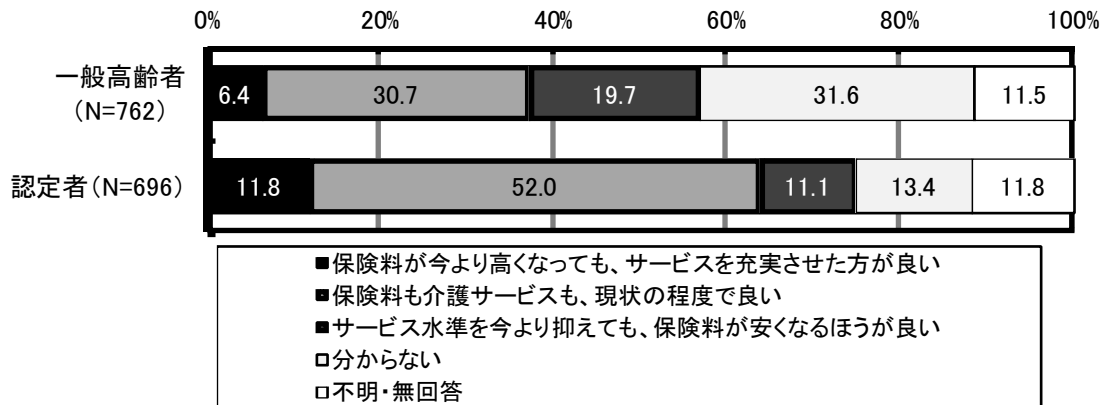
④ 保険料と介護サービスのあり方

保険料と介護サービスのあり方に関する考え方について、アンケートの結果をみると、一般高齢者では、「分からない」が31.6%と最も多く、「保険料も介護サービスも、現状の程度で良い」が30.7%、「サービス水準を今より抑えても、保険料が安くなるほうが良い」が19.7%となっています。

認定者では、「保険料も介護サービスも、現状の程度で良い」が52.0%と約半数を占めています。

一般高齢者では利用をしていないため「分からない」と答えた人が多く、認定者では現状でおおむね満足しているということがわかります。

<単数回答>



### (3) 今後の希望について

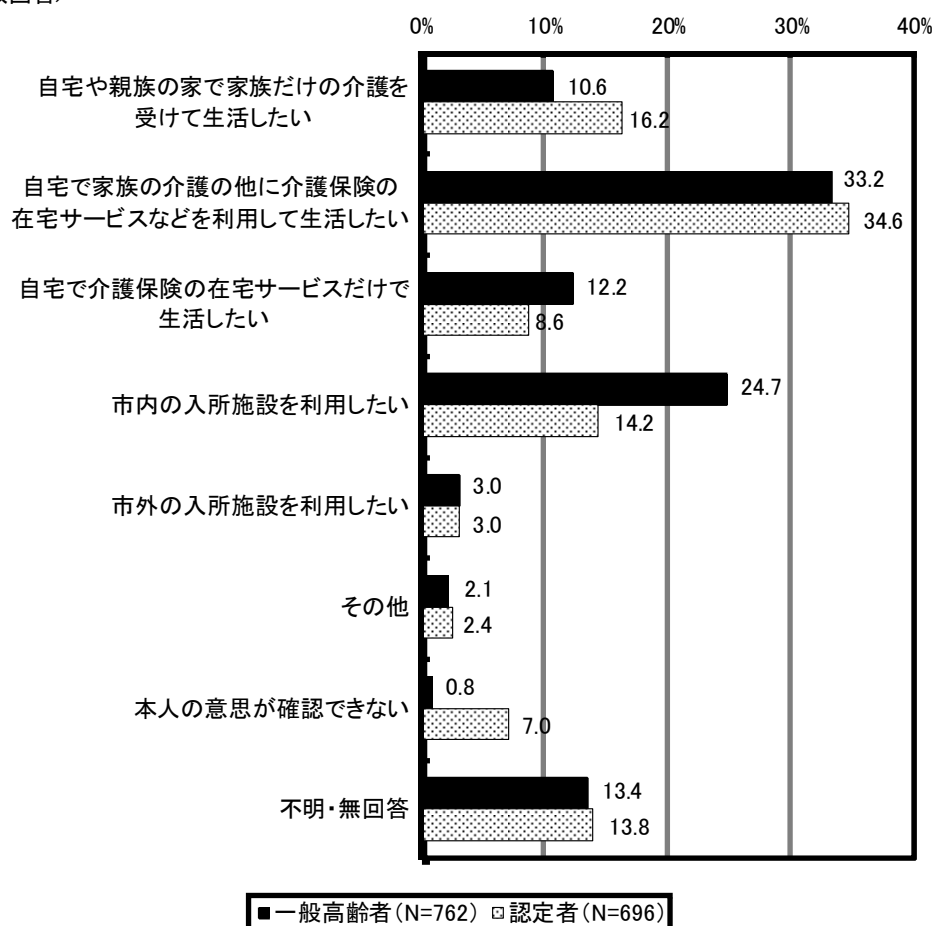
#### ① 今後どこで生活していきたいか

今後、介護が必要になったとき、どこで生活していきたいかについて、アンケートの結果をみると、一般高齢者では、「自宅で家族の介護の他に介護保険の在宅サービスなどを利用して生活したい」が33.2%と最も多く、次いで「市内の入所施設を利用したい」が24.7%、「自宅で介護保険の在宅サービスだけで生活したい」が12.2%となっています。

認定者では、「自宅で家族の介護の他に介護保険の在宅サービスなどを利用して生活したい」が34.6%と最も多く、次いで「自宅や親族の家で家族だけの介護を受けて生活したい」が16.2%、「市内の入所施設を利用したい」が14.2%となっています。

一般高齢者と認定者と比較した場合、一般高齢者は入所施設での介護の希望が高く、認定者では在宅での家族の介護の希望が高いということがわかります。

<複数回答>



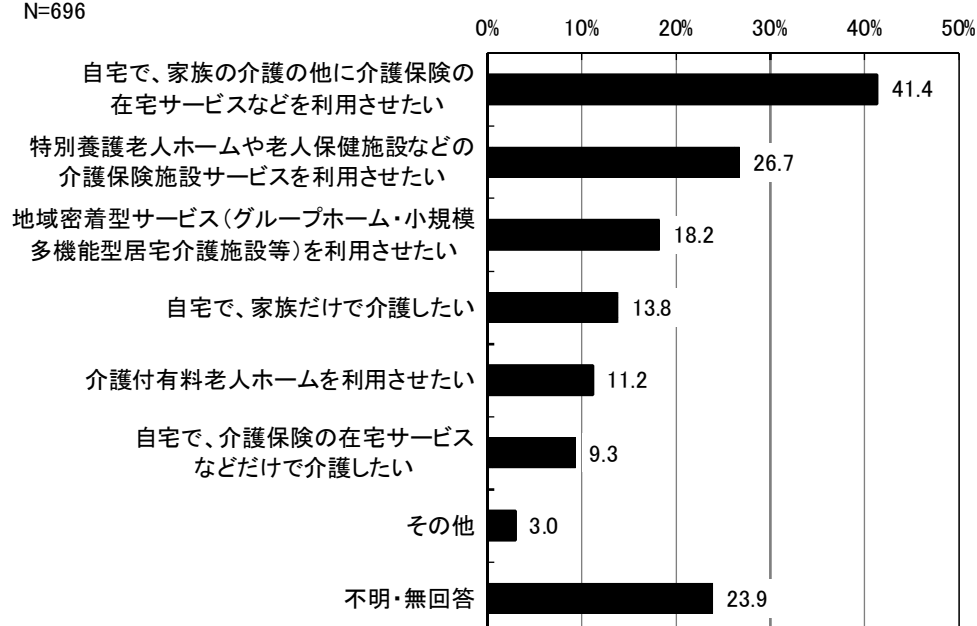
## ② 今後どのように介護していきたいか

介護者が今後どのように介護していきたいかについて、アンケートの結果をみると、認定者では「自宅で、家族の介護の他に介護保険の在宅サービスなどを利用させたい」が41.4%と最も高く、次いで「特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護保険施設サービスを利用させたい」が26.7%となっています。

認定者自身の希望では、「自宅で家族の介護の他に介護保険の在宅サービスなどを利用して生活したい」が同様に最も高くなっているが、介護者では、入所施設で介護の希望も高くなっている。

〈複数回答〉

N=696

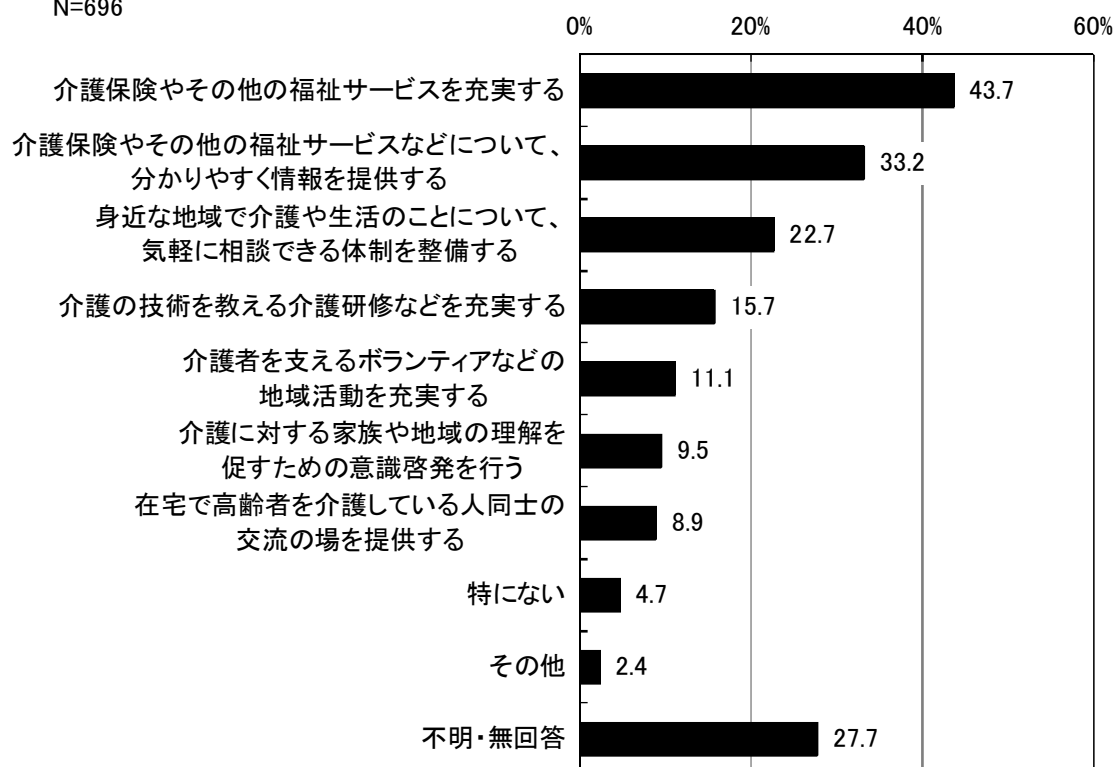


## ③ 今後も在宅で介護を続けるために必要な支援

今後も在宅で介護を続けるために必要な支援について、アンケートの結果をみると、認定者では、「介護保険やその他の福祉サービスを充実する」が43.7%と最も高く、次いで「介護保険やその他の福祉サービスなどについて、分かりやすく情報を提供する」が33.2%、「身近な地域で介護や生活のことについて、気軽に相談できる体制を整備する」が22.7%となっており、サービスの充実のほか、情報提供や相談体制の充実も求められていることがわかります。

〈複数回答〉

N=696



関連のご意見（地域福祉計画分野別課題調査より）

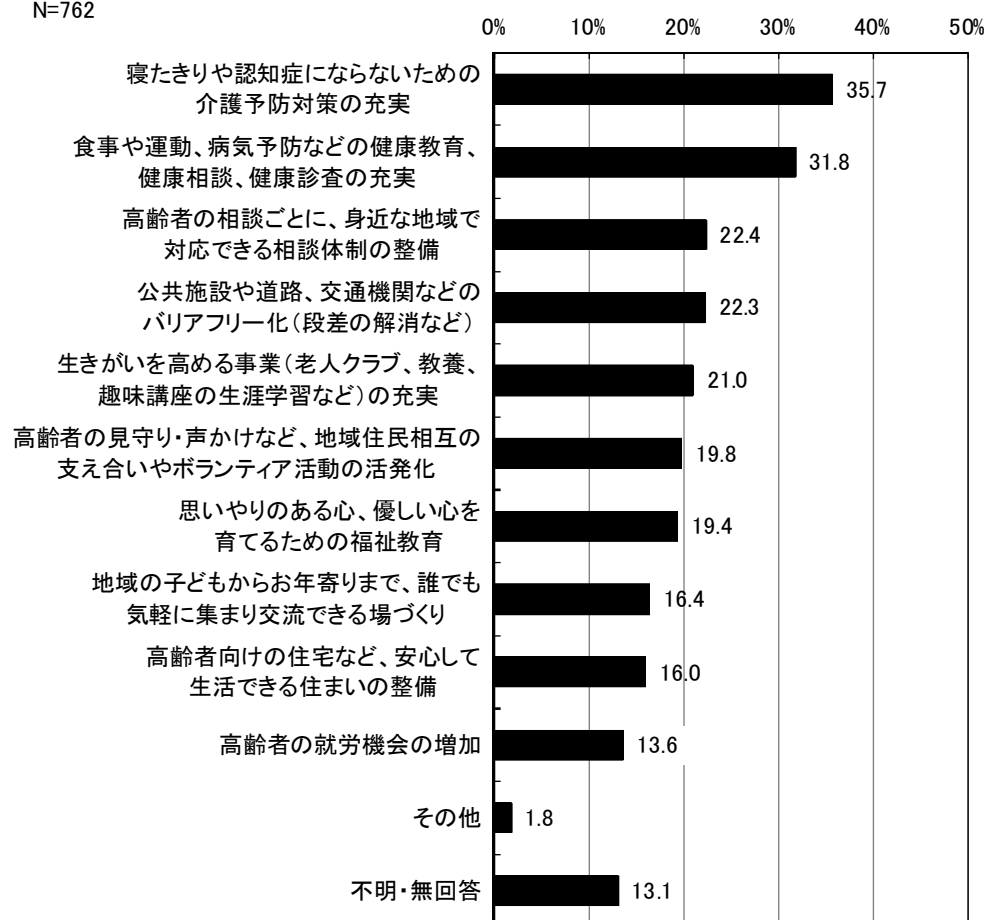
- 在宅生活を希望される人が多いが、現実には家族の負担が大きい。介護保険で対応できない場合などは、シルバー人材や自費サービス等の利用になるが、金銭的に難しい場合や、制限がある場合もある。行政や地域でのサービスが増えるとよい。
- 利用者本人は自宅での生活を希望している場合が多いが、同居家族が仕事をしていたり、現在の介護サービスでは対応できない場合がある。地域や行政全体のサービスや取り組みを見直した方がよい。
- 住まいの形態としては、持ち家が多いように思える。昔ながらの段差があり、移動しにくい状況になっている。今後も暮らしたい場所でもあるだろうから、必要最小限の改善等を支援できればと思う。

## ④ 高齢者福祉施策の充実のため、行政に力を入れてほしいこと

高齢者福祉施策の充実のため、行政に力を入れてほしいことについて、アンケートの結果をみると、一般高齢者では「寝たきりや認知症にならないための介護予防対策の充実」が35.7%と最も多く、次いで「食事や運動、病気予防などの健康教育、健康相談、健康診査の充実」が31.8%、「高齢者の相談ごとに、身近な地域で対応できる相談体制の整備」が22.4%などとなっており、要介護状態や病気にならないための予防、そして健康について、高い関心があることがわかります。

〈複数回答〉

N=762



関連のご意見 (地域福祉計画分野別課題調査より)

- ・「予防」という意識が薄く、誰かの助けが必要になってから後悔する人が多いように感じられる。また、逆に「歳だから」といって諦めている場合もあり、病気と同じように「予防」することで、長く元気に過ごすことができるという意識づけが必要だと思われる。
- ・同居家族がいる場合でも長時間日中独居状態で、近隣住民とのかかわりもほとんどなく、孤独に過ごしている高齢者が多い。
- ・台風や大雨などの時、家族や知人が近くにおらず、不安な気持ちになる。



### (4) 生活機能の状況について

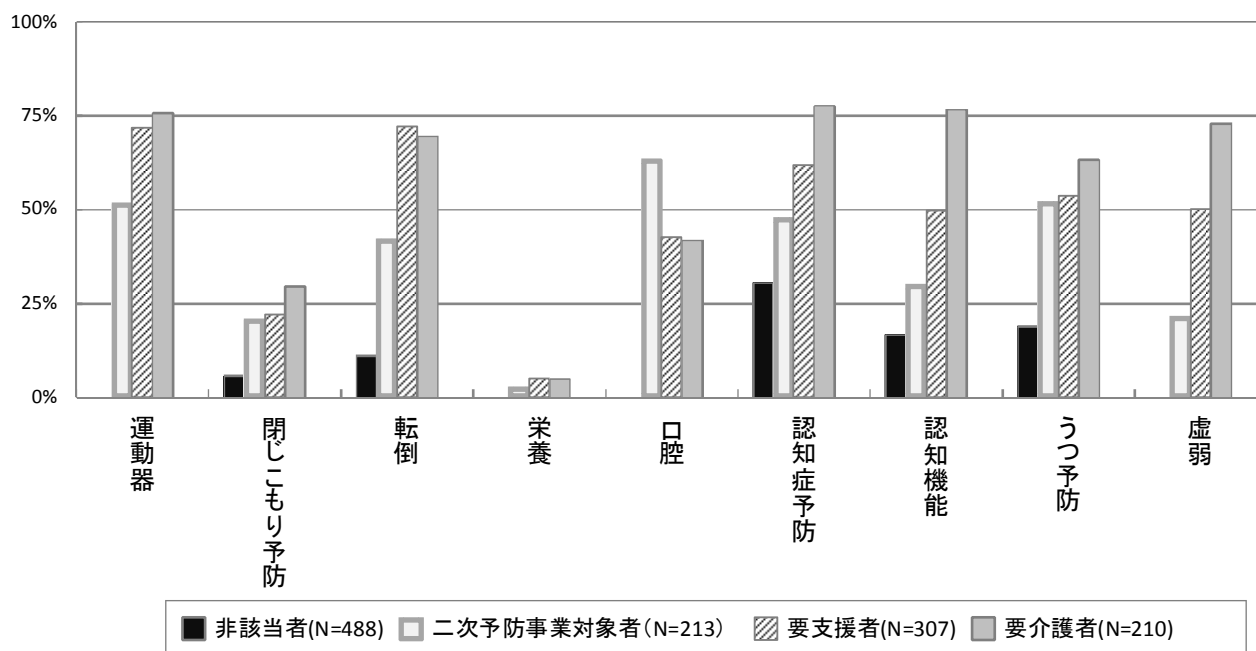
属性別にみると、非該当者では「認知症予防」で該当者・リスク者の割合が比較的高くなっています。

二次予防事業対象者では「運動器」、「口腔」、「うつ予防」で該当者・リスク者の割合が50%以上と高くなっています。

要支援者では、「運動器」、「転倒」、「認知症予防」、「うつ予防」、「虚弱」で該当者・リスク者の割合が50%以上と高くなっています。

要介護者では、「運動器」、「認知症予防」、「認知機能」で該当者・リスク者の割合が75%以上と高くなっています。

<項目ごとの該当者・リスク者の割合>



単位：%

	運動器	閉じこもり予防	転倒	栄養	口腔	認知症予防	認知機能	うつ予防	虚弱
	該当者	該当者	リスク者	該当者	該当者	該当者	障害あり (1レベル以上)	該当者	該当者
非該当者	0.0	5.7	11.1	0.0	0.0	30.5	16.6	18.9	0.0
二次予防事業対象者	51.6	20.7	42.3	2.8	63.4	47.9	30.0	52.1	21.6
要支援者	71.7	22.1	72.0	4.9	42.7	61.9	49.8	53.7	50.2
要介護者	75.7	29.5	69.5	4.8	41.9	77.6	76.7	63.3	72.9

二次予防事業対象者：「虚弱」「運動器」「栄養」「口腔」のいずれかの判定に該当する人

非該当者：「虚弱」「運動器」「栄養」「口腔」のいずれの判定にも該当しない人

## (5) 高齢者福祉、介護に係る課題調査について

- ① 現在、元気に生活している高齢者の方が今後も元気に過ごすためにあったらよいサービスや取り組み

ヒアリング調査の結果をみると、生きがいや楽しみをもてるようにするための取り組みやそういった取り組みに参加するための移動手段の確保などが求められています。

### <ヒアリング調査の結果(一部抜粋)>

- ◇やりがいや趣味を見つけ出し、活動できる場があると良い。行ってみたい！やってみてみたい！と思える講座の企画や介護予防につながる運動、講座を受けられるサービス
- ◇自立の方を対象としたデイサービス以外の健康教室等の充実
- ◇地区の活動や習い事を増やす。
- ◇元気な高齢者の方はご自分の意思（考え）をしっかりと持ってあり、また趣味等も持っていることで、カルチャースクール、サークル活動等既存のものを活用し、発表の場を増やす等の取り組みがよいのではないかと思います。
- ◇高齢者の方達が仕事から離れても社会に繋がりをもち続けていける様にボランティア活動支援や地域活動支援を地域と自治体が一体となって取り組む必要があると思います。
- ◇自宅から歩いて行ける範囲の小学校や公民館等に学習やサークル活動拠点を設ける。あるいは学習やサークル活動拠点への送迎サービス

- ② 認知症の方と認知症予備群の方に対して、あったらよいケアやサービス、取り組み

ヒアリング調査の結果をみると、地域で集まって講座やレクリエーションを行ったり、認知症に関する周知徹底、見守りの充実などが求められています。

### <ヒアリング調査の結果(一部抜粋)>

- ◇少人数のグループを作り、定期的に集まって食事会やレクリエーションを行う。  
その際、献立を考え買物や食事作り、片付けまでの全てを参加者が行う
- ◇脳トレーニングを意識したレクリエーション
- ◇認知症に対する知識等の情報を得やすい環境
- ◇認知症外来の周知。早めの受診を
- ◇民生委員さんなど地域とのネットワーク、声かけ
- ◇認知症の方の一人暮らしや日中独居の方の見守り、声かけなどの定期巡回（無料）サービスがあったら良いと思う⇒ボランティアなどを利用
- ◇本人の物忘れがあるという恐怖、不安感へのサポート。どのような経過をたどるのか不安を抱えている家族へのサポート等、精神的なケアを充実する必要がある。

- ③ 閉じこもり若しくは閉じこもりがちな方に対して、あったらよいサービス、取り組み  
ヒアリング調査の結果をみると、声かけや訪問、移動の支援などが求められていることがわかります。また、同時に実態把握の必要性への言及もありました。

<ヒアリング調査の結果(一部抜粋)>

- ◇その地区の民生委員の方のこまめな訪問、声かけから始め、その方の家の周りの方々にも声かけの協力をしてもらおう。
- ◇定期的に訪問を行い、顔見知りになる。
- ◇定期的に家庭訪問を実践するシステムを作る。とにかく<話す>事を重要視する。
- ◇地域の方が閉じこもりの方の自宅に気軽に出入り出来るような環境作り。閉じこもりのままを受け入れ、自宅に出向くサービス利用
- ◇高齢者は特に移動手段のないことが外出の妨げになることが多いと思うので、送迎付きでのイベントなどを行い、気軽に外出できる、しやすくなる配慮が必要と思う。
- ◇社会とかかわりが持てるように、仕事やボランティア活動を紹介できるサービス
- ◇どのくらいそういった事で困っている人がいるのか把握する。
- ◇なぜ、閉じこもりになっているのか要因をさぐる必要がある。

- ④ 家族介護者の負担を軽減していくためにあったらよいサービス、取り組み

ヒアリング調査の結果をみると、介護に関する知識や介護者同士が集まれる機会、短時間のデイサービスなどの提供が求められています。また、介護者が日中働きに出ていることも多く、『同居』の実態に合わせたサービス提供が必要です。

<ヒアリング調査の結果(一部抜粋)>

- ◇介護者が適切な介護が出来るように必要な知識、技術が習得できる勉強会、講座等を行政やサービス事業所等が協力して行う、開催する。
- ◇自宅を訪問し、介護の知識や介助方法などをアドバイスするサービス
- ◇家族の多くがネックに感じていることは“夜間帯”である。救急車をよぶまではないがどうすれば良いかわからない、という家族は多いと感じる。相談窓口の拡充。状態に合わせ、こういう状態だから何番というようにすぐ判断でき、気軽に問い合わせができるシステムがあるとより良い。
- ◇現在月1回行われている介護家族の「笑顔のつどい」の回数を増やし、精神的な負担を軽減する。
- ◇通所サービスの時間を延長可にする。
- ◇入浴と食事のみの2時間未満デイサービス
- ◇外出時のみの短時間デイ
- ◇『同居』していると訪問サービスが制限されてしまうが、日中は仕事している介護者も多い。もう少し柔軟な対応ができるとう良い。
- ◇介護認定を受け、介護保険サービスを利用し、介護者の負担の軽減を図る。

⑤ 現在小郡市が実施している高齢者福祉サービスについての改善点

ヒアリング調査の結果をみると、配食サービスの充実や移動に対する支援への改善点、および高齢者福祉サービスの周知が不足している点などが指摘されています。

<ヒアリング調査の結果(一部抜粋)>

- ◇高齢者（特に独居の方）が利用出来る生活必需品を販売する小売店ないし訪問販売車の制度を作る。
- ◇食生活に関して、同居者がいても困っている（必要性がある）ことを考慮してほしい。
- ◇食の自立支援について対象となる業者を利用者が選択できる様に増やしてほしい。
- ◇サービスになる前の予防（動ける方）でのアプローチを重要視する。
- ◇せっかくの脳トレ教室等開催されていますが、1回講習終了後行くところがなくなり、また自宅に閉じこもられるケースを見ました。その後のフォローとして、公民館単位で高齢者対象（介護保険対象者・非対象者）のサークル（現在の踊り等の習い事ではなく）ミニデイサービスの様な事を開催するのもいいのでは？
- ◇高齢者福祉サービスの周知徹底（居宅介護支援事業所等も同様）。利用が少ない高齢者福祉サービスに対して、なぜ利用が少ないのかを調査し、改善に向けての対策を考える
- ◇高齢者自身が元気な時から自分の老後について準備しておくこと。そういう啓蒙活動が必要だと感じている。
- ◇生きがいデイサービスの負担料金
- ◇介護サービスを全く利用していない高齢者だけの世帯の方は心配です。
- ◇介護認定を受けていない方の高齢者福祉サービスにリハビリや定期巡回サービスを取り入れてはと思う。

関連のご意見（地域福祉計画分野別課題調査より）

- 家族介護による心身の負担、労働力の損失、将来への不安等が感じられる。家族介護者支援、在宅介護を支える介護サービスの充実が今後も必要だと考える。
- 子どもが働いていて、昼間高齢者がひとりになるところが増加しているが、ふれあいネットワークの対象外でもあり、安全面や精神面でも不安定である。
- 「老い」「介護」に対する認識の低さがあると思う。「できていたことができなくなった」「物忘れがはじまってきた」など、初期からの対応や介護方法を学ぶことも必要かと考える。市民講座や今からはじめる介護教室等の定期開催

## ⑥ 現在小郡市内で実施されている介護保険サービスについての改善点

ヒアリング調査の結果をみると、介護認定の結果と審査対象者の実態とのずれや介護保険についての周知不足、介護保険サービス利用の不便さなどが指摘されています。

### ＜ヒアリング調査の結果(一部抜粋)＞

- ◇デイサービスなど、他の市町村ではすでに介護予防に着眼して”自分でできることは自分でしてもらう”などのサービスを取り入れているところが多いですが、小郡では昔ながらの”いたれり、つくせり”のサービスを提供している所が多いと思います。事業所自体への指導も必要ではないでしょうか？
- ◇介護認定を受けるにはどうすれば良いのか、介護認定とは何なのか、という問い合わせもあり、介護認定や介護サービスに関する情報が少ないのかなと感じます。
- ◇入所先及びショートステイ先の数(ベッド数)が少ない。特に医療的処置が多い方(インスリン摂取等)や認知症が重い方の受け入れ先が限られており、空きが少ない。
- ◇必要性のない方がサービスを使っていたり、過度にサービスを利用している方がいるように感じる。しっかり見極めていくことで質のいいサービスが提供できると思う。
- ◇訪問調査において家族がうまく状況を伝えきっていないような場合もある。介護度が低くなってしまう。
- ◇医療機関や施設からの在宅へ帰られる時の調整をスムーズにできる連携シートみたいなものを作成する。
- ◇小規模多機能型居宅介護については、1日の通いのサービスの利用人数を月の平均で行い、15名を超えた場合は職員を多く配置する事でサラリーマン世帯等、平日は仕事で介護出来ないが週末や祝日等は家族で介護を行う事が出来る環境作りを行う事で、在宅生活を継続する事が出来るケースが多くなるのではないかと考えます。平日見て欲しいと言う依頼が実際に多い為です。

### 関連のご意見 (地域福祉計画分野別課題調査より)

- 仕事をしている人が多く、介護保険サービスの送迎時間では高齢者のみで過ごす時間が長いので、もう少し長く利用できるサービス(預かり所)がもっと増えるとよいと思う。
- 家族のなかでも介護者が限られて負担が大きい場合があるが、介護保険での利用に制限があり、家族の負担が増加している。
- 今から介護が必要な人や今必要な人は、介護保険を利用するためには、どうすればよいのか理解していない人が多い。
- 高齢者が集まれる場所を地域につくり、交流を深め、いきいきとした生活が送れるようになれば、介護保険でのデイサービス利用者も減るのではないだろうか。

## (6) 高齢者福祉実態調査の自由意見について

高齢者福祉実態調査の自由意見をみると、住みやすいまちづくり、交通手段の確保、見守りの充実、緊急時の対応、分かりやすい情報提供、入所施設の充実、生きがいや楽しみをもてるような交流の場の充実などが求められています。

### <自由意見(一部抜粋)>

- ① まちづくり・環境・交通について
- ・ユニバーサルデザインの推進をお願いします。
  - ・道路の段差をなくしてほしいです。道が狭すぎます。とても不便で困っています。
  - ・病院や買い物に行くための、交通機関の充実をお願いします。
  - ・交通の便が悪いため、もっとコミュニティバスを増やしてほしいです。
  - ・駅のバリアフリー化・エスカレーターやエレベーターの取り付けをしてほしいです。
  - ・コミュニティバスの運行の範囲を広げてほしいです。
- ② 高齢者施策全般について
- ・1人暮らしの方の高齢化に伴い、食事の宅配・買い物援助を行政で行ってほしいです。
  - ・1人暮らしをしている高齢者の訪問・見守り等の対策をお願いします。
- ③ 生活の不安・困りごと・生計について
- ・買い物や通院ができなくなった時、市の手助けをお願いします。
  - ・寝たきりの状態のため、緊急時の対応について不安を感じています。
  - ・介護保険サービスを利用しても、その利用料すら生活苦になります。サービスを全体的に低料金で受けられるようにしてほしいです。
- ④ 介護相談・情報・利用手続きについて
- ・小郡市が行っている介護サービスの取り組みを、パンフレット等に分かりやすく作成してほしいです。
  - ・介護保険手続き等、利用者（高齢者）には、難しい手続きが多すぎます。気軽に必要な利用ができるシステム作りをお願いします。
- ⑤ 介護保険サービスについて
- ・低価格で入所できる施設を充実させてほしいです。高額であれば、年金生活者の大部分は入所できません。
  - ・現在、介護老人保険施設に申し込んでいますが、順番待ちです。必要な時に、すぐ入居できるように、施設を増やしてほしいです。
- ⑥ いきがい・社会参加・交流について
- ・各公民館に、高齢者がいつでも集まり話ができるサロンを、つくってほしいです。
  - ・高齢者でも働ける場や、積極的に社会参加できるような施設を増やしてほしいです。
  - ・子どもからお年寄りまで、気軽に交流できる場所を作ってほしいです。